

令和7年度 技術課程(技術課程フルコース)の講義項目と講義内容の概要

	開催月日 科目	講義項目/講師	講義内容の概要
1	10月30日(木) 概論	概論 新商品開発と実験計画の基礎 青山学院大学 名誉教授 石津 昌平	市場競争力を有するものづくりでは、顧客の要求を満たすと同時に競合企業を凌ぐ品質のものを作り出す経営が求められます。そのような品質のものを作り出すためには、経営者をはじめとする従業員全員が品質を重視して体系的活動を行う必要があります。概論では、そのための基本的考え方と方法についてのコースガイドを行います。とくに、本コースでは、品質を重視した経営における基盤となる品質保証体系の全体像を概観すると共に、品質の設計・開発を効率的に実践するための手法(検定・推定、実験計画法、回帰分析、品質展開、信頼性設計など)について概観します。
2	11月6日(木) 品質保証	新製品開発と品質保証 元文化学園大学特任教授 Quality Investigator 光藤 義郎	本講では、モノづくりの原点である「品質保証」とそれを実現する有力な手段の一つである「新製品開発」について講義する。本講義を通じて、VUCAと言われる混迷の時代、日本の産業の在り方や、その進むべき方向について、受講生の方々と一緒に考えてみたい。特に、日本の品質管理の礎を築かれた故石川馨先生は「新製品開発が予定通り進み、生産も順調にいき、発売したらどんどん売れ、客からのクレーム/不満もゼロとなれば、その会社のQCは一人前、新製品開発の品質保証は全社的な品質管理の神髄である」と語られた点を重視し、本講では、この新製品開発における品質保証について、その考え方と進め方のアウトラインを提示するとともに、その先にある積極的な品質保証や顧客価値創造の考え方についても言及していく。
3	11月13日(木) 問題解決と 検定・推定	問題解決プロセスの要点と 検定・推定の考え方 ー問題解決プロセスと エクセルによる分析ー 電気通信大学 名誉教授 鈴木 和幸	データに語らせ、問題を解決する為には、データに基づき現状を正しく捉え、母集団は何かを考えることが大切です。仮の要因が目的とする特性値に影響を与えているか否かを科学的に見極め、真の原因を追及します。また、バラツキがなぜ正規分布となるか、そして正規分布と標準の遵守との関連など、独学では理解困難な検定・推定を誰でもがわかるように丁寧に説明いたします。
4	11月18日(火) 実験計画と 分散分析①	分散分析・要因実験 拓殖大学 教授 佐野 雅隆	実験計画法は、品質や生産性向上のための道具として、製品開発・設計と生産の段階において活用され成果をあげています。その中で最も簡単な方法が、因子つまり実験結果に影響を与える要因を一つあるいは2つ取り上げる一元配置実験と二元配置実験です。ここでは、それらについて、実験のやり方、さらに、得られた実験データをどう解析し結論を導くかの基本的考え方と具体的手順を説明します。データの構造モデル、平方和の分解から分散分析表の作成、さらには区間推定を含む推定結果に基づく最適な水準の決定方法まで議論します。分割実験や直交表による実験の議論の基礎ともなります。
5	11月25日(火) 実験計画と 分散分析②	直交配列表による実験計画 東海大学 教授 金子 雅明	特性をばらつかせる要因が絞られている場合には、因子を一つや二つ取り上げて実験が行われ、実験の数を増やすことなく水準の変更によって特性がどのように変化するか調べることができます(要因実験)。不良の解析、新製品・新技術の開発、特性の大幅な改善、工程設計などの場合においては、要因が絞られていなかったり、多くの要因を同時に取り上げて実験する場合があります。このような場面においては、実験の回数を増やさず、効率よく技術情報を得ることができる直交配列表を用いた実験が有効です(直交実験)。ここでは、その代表的な方法として各因子で2水準を取り上げる2水準直交実験による実験の計画およびデータ解析方法を具体例で丁寧に説明し、演習と解説によって理解度を着実に高めていきます。
6	12月4日(木) DEゲーム①	PCを用いた実験計画シミュレーションソフトの使い方と実践 株式会社 日本科学技術研修所 犬伏 秀生	本講義では、逐次探索実験のシミュレーションソフトを使用して、これまでの講義で学んだ一元配置実験、二元配置実験、直交配列表実験を実践的に体験していただきます。本講義を通して、各種実験の計画・解析の復習ができると共に、各種実験をどのように使うのか、どの因子を取り上げるのか、各因子の水準をどのように設定するのか、得られた実験結果を次の実験にどのように生かすのか等の実践的な知識も身に付きます。1日目に簡単な課題で逐次探索実験の基本的な考え方を習得していただき、2日目にはより難しい課題にチャレンジしていただきます。本講義は各自のPCを使用した個人演習となります。
7	12月11日(木) DEゲーム②	株式会社 日本科学技術研修所 犬伏 秀生	(このセルは6番目の講義の続きとして、内容は6番目の講義の「本講義は各自のPCを使用した個人演習となります。」と一致する)

8	12月18日(木) 実験計画と分散分析④	分割実験 早稲田大学 教授 中島 健一	多くの因子を組合せた実験計画の基礎をなす原則としてフィッシャーの3原則(実験順序のランダム化、実験の繰返し、実験の場の小分け化)があります。このうち、実験に取り上げる因子によっては、実験のたびに水準を変更することに時間を要したり、煩雑だったり、不経済であったりして実験順序をランダムに行うことが困難な場合があります。このような場合、組合せ実験を何段階かに小分け(分割)にしてランダム化する実験方法として分割実験があります。その考え方、実験のやり方、解析方法について解説し、時間内演習を行います。
9	12月25日(木) 相関・回帰分析	エクセルによる回帰分析 慶應義塾大学 教授 鈴木 秀男	回帰分析は、説明変数と目的変数との因果関係を仮定し、説明変数の値に基づいて目的変数を予測することなどを目的とします。例えば、中古マンション市場のデータから、説明変数(広さ、築年数、最寄駅までの所要時間)に基づき目的変数(価格)を予測するモデル構築を行う。本講義では、回帰モデルの考え方、モデルの推定手順や評価方法、解析方法について解説し、時間内演習、EXCELによる実習を行います。
10	1月15日(木) 実験計画の実施 総合演習	実験計画実施上の諸注意 東海大学 名誉教授 綾野 克俊	これまでに学んだ実験計画を実施するに当たっての注意点について学習するとともに、これまでに学習した内容についての振り返りを行います。
		試験と解説	これまでに学習した内容について理解度を確認するための試験を行い、解説により理解度を深めます。
11	1月22日(木) QCと生成AI	生成AIの業務活用とQC 関西大学 名誉教授 荒木 孝治	ChatGPTに代表される生成AIの登場は、産業界に大きな影響を与えています。この技術は、品質管理活動の向上に大きな可能性をもっています。本講義では、生成AIを活用して組織の業務をどのように改善できるのか、初心者にもわかりやすく解説します。具体的には： 1.ChatGPTやClaudeなどの基本的な使い方 2.様々な業務、特に品質管理への具体的な活用方法 3.生成AIを用いた基礎的なデータ分析の方法
12	1月26日(月) 品質機能展開(QFD)①	QFD概論、QFD演習(1) 玉川大学 教授 永井 一志	品質機能展開(QFD:Quality Function Deployment)は、確実な品質保証を実現する具体的な方法として提案され活用されてきた考え方ですが、さまざまな使われ方がなされて新製品の企画開発にも利用されています。QFDにおける主要ツールとして品質表がありますが、品質表をどのように作成するかについて解説します。また、業務機能展開という考え方もあり、技術展開との関係についても解説します。このQFDについて、具体的な事例を含めて解説し、QFDで活用されるツールについても説明し、QFDが直ぐに実践で活用できるレベルを目指します。
13	1月30日(金) 品質機能展開(QFD)②	QFD演習(2) 実務でQFDを使いこなすために 玉川大学 教授 木内 正光	既に講義がなされている品質機能展開(QFD)について演習を行い、その理解度を高めることが本講義の主たるねらいです。QFDでは様々な二元表を組み合わせながら開発製品の情報を整理するため、SQC手法のように何かのデータを入力すれば決まった出力があるという性格のものではありません。したがって、QFDで何を明らかにしたいのか、その目的を明らかにすることが求められます。本講義ではQFDの中でもとりわけ有名な品質表をベースとしながら、自身が会社に戻ってからもQFDを使いこなすことのできる能力を修得することを目的とします。
14	2月12日(木) 信頼性	信頼性の基礎 --エラープルーフとフェイルセーフ、寿命データの解析-- 電気通信大学 名誉教授 鈴木 和幸	モノづくり・コトづくりとそのサービスの提供においては、QCDを含め、すべてを完璧に達成しようとは限らず、安心・安全を脅かす重大故障や重大インシデントが発生しうる。これらのトラブルの未然防止を科学するものが品質管理と信頼性工学であり、これらに基づき、信頼性目標を達成し未然防止を行うための組織的活動が信頼性管理である。本講義では、これらの信頼性を作り込み・維持するべく企業の視点に立つて次の信頼性の三つの要素:①基本的な信頼性、②保全性、③設計信頼性 を理論と実践の両面より説明する。
15	2月26日(木) 事例研究 まとめ	事例発表・討論 東海大学 名誉教授 綾野 克俊	受講生が所属する企業の中の問題を学習した手法を用いて、その問題解決に係る事例について各人でレポートを作成します。講義では受講生より提出されたレポートから選出されたものに関して発表をおこないます。また、内容に関しての討論を全員でおこない、より理解度を深めます。
		質疑応答及び修了式 青山学院大学 名誉教授 石津 昌平	受講生がこのコースで学んだことを持ち帰って自社で役立たせるためには、講習会の間に得られた知識を自社の現状と照らして問題は何かを認識することが重要です。そのために個人または共同で実践に役立つ経験を体験してもらうための事例研究を行っています。最終回では、講習会で得られた知識および事例研究を自社の現状と照らして各自から疑問点を事前に提出してもらい、それに答える形で質疑応答を行います。